

## もくじ

▽大会報告	1
▽若手の会レポート	2
▽大会のお知らせ	2
▽国際会議のお知らせ	3
▽奨励発表会報告	4
▽授賞報告	5
▽JPA 投稿規定和訳版	6
▽from Editors	7

### 【大会報告】

#### 第 67 回大会(東京)開催報告

大会長 菊池吉晃（首都大学東京）

2012年11月17日（土）・18日（日）の両日、首都大学東京荒川キャンパスにおいて日本生理人類学会第67回大会が開催されました。本大会の参加者は160名を超え、一般口演40件・ポスター24件の発表について活発な議論が行われました。一般発表に加えて、2つのシンポジウムも行われました。ひとつは、「ヒトの情動—新たな視点をもとめて—」（座長：宮崎先生）でした。このシンポジウムは、佐藤方彦先生（日本生理人類学会前会長、九州芸術工科大学名誉教授）をお迎えして行われる予定でしたが、大変残念ながらご体調の関係で当日のご参加は叶いませんでした。当シンポジウムでは、星詳子先生（東京都医学総合研究所）と私がシンポジストとして、最新のヒト情動機能に関してそれぞれ異なる視点からの研究成果が紹介されました。これらの研究について、勝浦先生、安河内先生をはじめとして会場からの活発なご議論を頂きました。ちなみに、このシンポジウムでは、ご参加下さった皆様にリラックスして議論を楽しんで頂くとともに、次に控えている懇親会への景気づけ？を兼ねて、グラスシャンパンがサービスされました。もうひとつは、「ニューロマーケティング—脳科学への期待—」（シンポジスト：小早川達先生（産

業技術総合研究所）、金田弘拳先生（サッポロホールディングス株式会社）、白土真紀先生（株式会社資生堂）、座長：岩永先生）でした。



#### シンポジウムの様子

このシンポジウムではニューロマーケティングについて、企業や研究所における実際の研究事例などが紹介され、今後の展望などについて議論が行われました。

学会初日の懇親会は、冷たく激しい雨の中で行われましたが、100名前後の方々にご参加頂くことができました。ご多忙の中長崎から駆けつけて下さったばかりの草野先生に司会をして頂き、いつものように和気藹藹としたとても楽しい懇親会となりました。ここでは、66回大会（草野大会長）の優秀発表賞受賞式も行われました。また、68回大会長藤原先生、69回大会長福岡先生、

70回大会長綿貫先生、71回大会長中村先生から、それぞれ今後開催予定の生理人類学会大会についての楽しいご案内も頂きました。



口演会場では白熱した論議で盛り上がった。

本大会の開催におきまして、ご指導賜りました佐藤方彦先生、勝浦会長、安河内副会長、宮崎副会長に深く感謝申し上げますとともに、ご協力とご支援を賜りました皆様方に心から感謝申し上げます。

#### 【若手の会レポート】

##### 第20回若手の会

高橋隆宜(大阪市立大学大学院)

本会は第67回大会の前日である16日に首都大学東京荒川キャンパス内にて開催いたしました。参加者は発表には千葉大学大学院の小松実紗子さん、首都大学東京大学院所属(帝京科学大学助教)の跡見友章先生、統計数理研究所(日本学術振興会特別研究員)の中込滋樹先生の3名にご発表をいただきました。



#### 若手の会終了後、記念撮影

小松さんは就労者のストレス緩和にバラを生かすことを目的にアプローチしており、参加者からは多数の質問が飛び交い、充実したものとなりました。また、跡見先生は脳内の神経系がバランス維持にどのように貢献しているかに着目

した発表であり、fMRIを用いた脳深部での活動を検討している興味深いご発表でした。中込先生には人類学的な研究にふれ、ヒトゲノムとクローン病の関係を分かりやすくご説明いただくとともに、研究の将来性と生理人類学との接点を垣間みせていただきました。

今回は40名近くの参加者となり、盛況に終わりましたことをご報告するとともに、立派な会場を用意して下さった首都大学東京の菊池吉晃先生に心より感謝申し上げます。

#### 【大会のお知らせ】

##### 第68回大会(金沢)のご案内

大会長 藤原勝夫(金沢大学)

第68回大会を、下記の予定で開催いたします。北陸地区で初めての開催となります。本大会では、人類学会関連学会合同シンポジウムを開催いたします。このシンポジウムでは、ヒトの基本姿勢である直立での二足歩行に焦点をあてた「人間の姿勢とロコモーション様式の特徴」をテーマとします。さらに、公募によるシンポジウムを開催いたします。テーマは、「脳活動の活性化とリラクゼーション」です。この他に、高橋正紘先生をお招きし、「動揺病」(仮題)と題した特別講演を開催いたします。心行くまで討論できるような学会にしたいと考えております。また、古都金沢の文化を満喫していただきたいと思っております。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

1. 会期：2013年6月8日(土)・9日(日)

2. 会場：金沢大学医学部(宝町キャンパス)

〒920-640 石川県金沢市宝町13-1

宝町キャンパスへのアクセスガイド

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/index.html>

宝町キャンパスマップ

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/images/takaral1.pdf>

#### 3. プログラム概要(予定)

0) 理事会(6/7)

1) 一般口演(6/8, 9)

2) ポスターセッション(6/8, 9)

3) 人類学関連学会合同シンポジウム(6/8, 13:30- 15:30)「人間の姿勢とロコモーション」

様式の特徴」

- 4) 特別講演(6/9, 13:00-14:00)  
「動揺病」(仮題)
- 5) シンポジウム(公募)(6/9, 15:10-16:40)  
「脳活動の活性化とリラクゼーション」
- 6) 評議員会(6/8)
- 7) 懇親会(6/8 医学部記念館)
- 8) 総会(6/9)

#### 4. 参加・発表申し込み等日程・方法

- 1) シンポジウム発表申込締切: 2013年 3/19(火)  
学会ホームページ第68回大会案内より「シンポジウム発表申込書」をダウンロードして、ご記入後、大会事務局まで E-mail でお送り下さい。シンポジストになられた方は、「3) 抄録締切」を参照し、抄録を提出して下さい。
- 2) 演題申込締切: 2013年 4/8(月)  
学会ホームページ第68回大会案内より「発表申込書」をダウンロードして、ご記入後大会事務局まで E-mail にてお送り下さい。
- 3) 抄録締切: 2013年 5/7(火)  
学会ホームページ第68回大会案内に掲載の「抄録作成要領」をご参照ください。作成した抄録は、PDF ファイルで E-mail にて事務局までお送り下さい。
- 4) 参加申込書(演者として発表しない場合)  
学会ホームページ第68回大会案内より「参加申込書」をダウンロードして、ご記入後大会事務局まで E-mail にてお送り下さい。※発表される方は「参加申込書」をご送付頂かなくても結構です。

#### 5. 大会参加費・懇親会費

- 1) 大会参加費  
・事前振込(5月7日(火)まで)  
正会員 7,000 円, 非会員 9,000 円, 学生(正会員/学生会員)3,000 円, 学生(非会員)4,000 円  
・当日払い(5月9日(水)以後)  
正会員 8,000 円, 非会員 10,000 円, 学生(正会員/学生会員)4,000 円, 学生(非会員)5,000 円
- 2) 懇親会費  
正会員 3,000 円, 非会員 4,000 円, 学生(正会員/学生会員/非会員)1,000 円

#### 6. 振込先

<郵便振替>

口座記号番号: 00780-4-53480  
口座名称: 第68回日本生理人類学会大会  
実行委員会

<銀行振込>

ゆうちょ銀行 ○七九店 (ゼロナキユウ店)  
預金種目: 当座預金  
口座番号: 0053480  
受取人: 第68回日本生理人類学会大会実行委員会  
大会事務局(問合せ先):  
〒920-8640 石川県金沢市宝町 13-1  
金沢大学医薬保健研究域 医学系運動生体管理  
学内 日本生理人類学会第68回大会事務局  
E-mail: Info-68jspa@med.m.kanazawa-u.ac.jp  
TEL: 076-265-2227(直通)  
FAX: 076-234-4219

#### 【第11回国際生理人類学会議のご案内】

国際担当理事 恒次祐子, 原田一

以下のように第11回国際生理人類学会議が開催されます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

#### 会議概要

会議長: Douglas Crews教授(オハイオ州立大学)  
日時: 2013年8月8日~8月10日(本会議)

8/7に登録, 若手の会などが予定されています。

場所: The Banff Centre, Banff, Alberta, Canada

メインテーマ:

Human Variation and Built Environments

セッションのテーマ(予定):

1. Human adaptability in built environments
  2. Techno-adaptability in built environments
  3. Genetics and human variation
  4. Temperature and lighting effects on physiological responses
  5. Physiological responses in aging, exercise and health
  6. Physiological anthropology in ergonomics and design
  7. Biological approaches in physiological anthropology
  8. Methodology in physiological anthropology
- その他, セッションテーマの提案を会議事務

局で受け付けています。登録、発表申し込みの締め切りや登録費等については分かり次第ご案内申し上げます。日本からの参加者については国内口座を開設し、日本円での登録費支払いを受け付ける予定です。

## 会場

バンフはカナダで最初の国立公園であるバンフ国立公園の南側に位置するリゾートの町です。バンフ国立公園はカナディアンロッキーの一部で、広さは東京都の約3倍です。1984年に周辺の国立公園とともに世界遺産に登録されました。バンフは5km<sup>2</sup>ほどの小さな町です。



バンフの位置

会場であるバンフセンターは1933年にアルバータ大学によってアート教育の場として設立されました。このため現在でもバンフセンターは様々なアートプログラムやフェスティバル—例えばバンフアートフェスティバル(夏, 冬の2回), バンフ山岳映画フェスティバルなど—, ワークショップの開催場所となっています。敷地面積は17ヘクタールで、いくつかのホールや建物、宿泊施設が点在しています。

## 交通

バンフセンターへはカルガリー国際空港からシャトルバスが便利です。

○シャトルバス (Banff Airporter 社) 時刻表  
(2013年1月現在。詳細はご確認下さい。  
<http://www.banffairporter.com/>)

カルガリー空港→バンフ (所要時間約2時間)  
\*09:00 発, 10:30 発, \*11:30 発, 12:30 発, 13:30 発, 14:30 発, 15:30 発, 16:30 発, \*17:30 発, 18:30 発, 20:30 発, 22:30 発 \*季節による  
大人 56.85 ドル, 子供 28.43 ドル

その他のバス会社 (Brewster など) もバンフへの長距離バスを運行しています。ウェブサイトから予約でき、当日空港でもチケットを買うことができます。日本からカルガリーへはエア・カナダの成田発直行便が毎日 (2013年5月より) あります。

飛行機発着時刻の例 (2013年1月現在)

8/6	17:00 成田発 同日 11:40 カルガリー着
8/11	13:45 カルガリー発
8/12	15:25 成田着

その他バンクーバー乗換, アメリカの各都市での乗換などいくつかの選択肢があります。



バンフセンター (The Banff Centre website より)

## お問い合わせ

セッションテーマのご提案やその他のお問い合わせは以下までご連絡下さい。

会議長 Prof. Douglas E. Crews  
(オハイオ州立大学) [crews.8@osu.edu](mailto:crews.8@osu.edu)  
会議事務局長, 国際担当理事 原田一  
(東北工業大学) [harada@tohtech.ac.jp](mailto:harada@tohtech.ac.jp)  
国際担当理事 恒次祐子 (森林総合研究所)  
029-829-8310, [yukot@ffpri.affrc.go.jp](mailto:yukot@ffpri.affrc.go.jp)

## 【奨励発表会報告】

平成24年度関東地区研究奨励発表会開催報告  
石橋圭太(千葉大学)

年末恒例となりました, 研究奨励発表会 (関東地区) が12月8日に千葉大学西千葉キャンパスで行われました。関東地区での開催はこれまで, 都心の豊洲か田町でしたので, すこし遠方となる西千葉で演題が集まるか不安はございましたが, おかげさまで33題を数える盛会となりました。研究奨励発表会は, 大学生, 大学院生の萌芽的な研究に対して発表の機会を与える若手の登竜門

としての位置づけですが、宮崎副会長からご示唆をいただき今年から口頭発表のセッションに加えてポスターセッションをもうけることになりました。ポスター前でのディスカッションだけではなく、口演会場における2分間の概要発表（質疑応答なし）のセッションも設けました。



ポスターセッションの様子

これは以前、横浜のICHES'98で行われていたのを参考にしました。テンポ良くポスターセッション全体の概要を知ることができて良い試みだったと思います。ちなみにポスターを張るためのボードはレンタルするとかなりの出費になるのですが、京都で行われたサマーセミナーで段ボール板にポスターを掲示していたアイデアを拝借しました。若手の会の現会長の高橋隆宜さんのナイスなアイデアだったと伺っています。おかげさまで安く上がりました。懇親会は千葉大生（教員含む）おなじみの北京亭本店で行われました。お店の御厚意に甘えて貸し切りでお願いしました。おかげさまで懇親会でのディスカッションも大変盛会でした。



口演セッションの様子

さて、優秀発表賞は、厳正な審査の結果、次の5演題の発表者に授与されました（順不同）。

- ・大倉脩平（芝浦工業大学大学院 理工学研究科）  
HIVC反応時のウェーブレット解析
- ・佐藤大斗（神奈川工科大学大学院 ロボット・メカトロニクスシステム専攻）  
把握物体のイメージが握り易さの最適径に及ぼす影響
- ・船戸麻里子（芝浦工業大学大学院 理工学研究科）  
ラバーハンドイリュージョンが及ぼす生体反応への影響
- ・内山友里亜（千葉大学 工学部）  
青色パルス光

の光強度と照射時間の違いが覚醒水準と瞳孔径に及ぼす影響

・濱野仁郎（千葉大学大学院 工学研究科）  
足底内在筋の表面筋電図による立位姿勢制御機能の評価

この他にも全国大会で聞きたいようなレベルの高い発表が多数ありました。2013年度も同じ時期に開催される予定です。たくさんの演題をお待ちしております。

## 【授賞報告】

### 第1回国際時實生理人類学賞受賞者決定の報告

同選考委員会委員長 勝浦哲夫

日本生理人類学会では、我が国における生理人類学の礎を築いた時實利彦先生の功績を称え、また、生理人類学のさらなる研究発展を図るために、「国際時實生理人類学賞」を平成24年4月に制定しました。この賞は、学会の会員・非会員を問わず、生理人類学の研究発展に特に顕著な貢献をした個人に対して授与されます。受賞者の選考にあたっては、国内外の生理人類学に携わる研究者から推薦のあった方を対象に（自薦は受け付けておりません）、学会会長を委員長とする選考委員会が厳正な審査を行い、選考結果に対する学会理事会での審議を経て、受賞者が決定されます。

第1回国際時實生理人類学賞の受賞者選考に先立ち選考委員会が組織されました。選考委員会の構成員は以下の方々です（敬称略）：勝浦哲夫（委員長、日本生理人類学会会長）、Alan Bittles（国際生理人類学連合会長）、金澤英作（北原学院歯科衛生専門学校校長、前日本人類学会会長）、清水慶子（岡山理科大学教授、日本霊長類学会会長）、安河内朗（日本生理人類学会副会長）、岩永光一（日本生理人類学会副会長）。

平成24年10月28日から11月30日にかけて、受賞候補者推薦の公募を行いました。公募期間内に1件の候補者の推薦を受け付けましたので、平成25年1月18日に選考委員会を開催し、審議の結果、全員一致で佐藤方彦先生（前日本生理人類学会会長）への授賞を決定いたしました。なお、このたびの受賞候補者推薦の公募については平成24年10月28日に、選考結果については平成25年1月30日に、会員向けメール配信サービスを利用してお知らせしたとおりです。

以上、第1回国際時實生理人類学賞が佐藤方彦先生に授与されることを会員のみなさまにご報告申し上げますとともに、佐藤方彦先生の受賞を心よりお慶び申し上げます次第です。

## 【JPA 投稿規定和訳版】

Journal of Physiological Anthropology (JPA) 誌が電子化されて1年以上が経ちました。論文採用までの一連のプロセスを既に体験済みの方もいらっしゃると思いますが、一方で、独特の英語表現が頻出する投稿規定に辟易して、投稿を躊躇されている方がおられるかもしれません。そこで PANews 編集部では、千葉大学の宮崎良文先生に投稿規定の和訳版を作っていただきました。JPA への投稿を考えていらっしゃる方のお役に立てば幸いです。

### JPA 原著論文 (Original Articles) 投稿規定

#### I. 提出プロセス Submission process

- (1) 原稿は、一名の著者によるオンライン投稿とする。
  - (2) 提出時にはカバーレターを提出する。  
カバーレターには、
    - 1) なぜ本ジャーナルに発表するのか記す。
    - 2) 原稿のタイトルページを含む。
    - 3) 推薦査読者の連絡先(電子メールアドレスを含む)を記す。推薦査読者として、①過去5年以内に「すべての共著者」の共著者になっている場合、②現在の共同研究者、③同じ研究組織のメンバーは除かれる。
1. ファイル形式
- ①Microsoft Word (DOC, DOCX), Rich text format (RTF), Portable document format (PDF), TeX/LaTeX (use BioMed Central's TeX template), DeVice Independent format (DVI) とする。
  - ②図は、原稿ファイルの一部ではなく、別ファイルとして提出する。

#### II. 原稿テキストの用意 Preparing main manuscript text

1. 原著論文の原稿セクションの概要
  - ①次のセクション順に分割記載する。：タイトルページ (Title page), 要約 (Abstract), キーワード (Keywords), 背景 (Background), 方法 (Methods), 結果および考察 (Results and discussion), 結論 (Conclusions), (あれば)使用された略語のリスト (List of abbreviations used, if any), 利害関係 (Competing interests), 著者の貢献 (Authors' contributions), 著者の情報 (Authors' information), 謝辞 (Acknowledgements), 後注 (Endnotes), 引用文献 (References), 図 (Illustrations and figures, if any), 表とキャプション (Tables and captions), 追加ファイル (Preparing additional files)
  - 1) タイトルページ (Title page)
    - ①タイトルページの必要要件: タイトル, 著者名, 所属機関住所, メールアドレス一覧, コレスポンディングオーサーを記載する。
    - ②注意事項: 略語を避ける。また、二重盲検方式のため、

- 原稿ファイルには含まれない。
- 2) アブストラクト (Abstract)
    - ①350ワードを超えないようにする。
    - ②背景 (Background), 結果 (Results), 結論 (Conclusions) から構成する。
    - ③略語の使用は最小限とし、引用文献は引用しない。
  - 3) キーワード (Keywords)
    - ①主要内容を表す3~10個のキーワードを記す。
  - 4) 背景 (Background)
    - ①専門知識がない研究者にも、その研究や研究目的が分かるように記載する。
  - 5) 方法 (Methods)
    - ①再現性を確保するため、研究デザイン、材料、比較内容、分析法を含む。
  - 6) 結果および考察 (Results and discussion)
    - ①結果および考察は、同一セクションに結合しても良いし、別々にしても良い。
  - 7) 結論 (Conclusions)
    - ①研究の主な結論を述べ、その重要性和問題点との関連性を説明する。
    - ②要約イラストを含んでもよい。
  - 8) (あれば)使用された略語のリスト (List of abbreviations used, if any)
    - ①本文中に略語が使用されている場合、初回使用時に定義する。略語リストを示すことができる。
  - 9) 利害関係
    - ①著者は、利害関係の申告を必要とする。利害関係がない場合、'The author(s) declare that they have no competing interests' と記す。(以下、略)
  - 10) 著者の貢献 (Authors' contributions)
    - ①共著者の個々の貢献を記載する。
    - ②著者としての資格を得るには、下記に該当する必要がある。
      1. 研究概念, 研究デザイン, データ取得, データ分析, 解釈における多大な貢献, 2. 原稿の起草, または重要な改訂, 3. 論文原稿の最終承認。
      - ③資金調達, データ収集, 研究グループ管理のみの貢献では著者として認められない。
      - ④下記のような形式をお勧めする(各著者の頭文字を使用する)。  
AB carried out the molecular genetic studies, participated in the sequence alignment and drafted the manuscript. JY carried out the immunoassays. MT participated in the sequence alignment. ES participated in the design of the study and performed the statistical analysis. FG conceived of the study, and participated in its design and coordination and helped to draft the manuscript. All authors read and approved the final manuscript.
    - ⑤原稿ファイルには含まれない。
  - 11) 著者の情報 (Author's information)
    - ①著者らの所属機関や現在の立場、またはその他の関連する情報など著者らに関する詳細が含まれる。著者らの頭文字を使用して記入する。
    - ②原稿ファイルには含まれない。
  - 12) 謝辞 (Acknowledgements)
    - ①論文に貢献したが、共著者の基準を満たしていない者は、謝辞に記す。
    - ②研究資金提供団体やデザイン、データの収集・分析・解釈、原稿の執筆および出版の決定への貢献について

て記載する。

- ③謝辞のセクションに記載されているすべての人から謝辞に名前を示すことについて、許可を得る必要がある。
- ④原稿ファイルには含まれない。
- 13) 後注 (Endnotes)
  - ①上付き・小文字を使用する。
- 14) 引用文献
  - ①URL を含んだすべての引用文献は、本文に引用されている順序で、括弧内に連続番号を付ける。
  - ②各文献は、個々の文献番号を持つ。
  - ③未発表の抄録、未発表のデータや個人の通信は、引用文献リストに含んではいけない。しかし、"未発表の論評"や"パーソナル・コミュニケーション"として本文中に含まれている場合は記載することができる。引用した個人的な通信や未発表データを引用する許可は筆者が取る。
  - ④ジャーナルの略称は Index Medicus/MEDLINE に従って作成する。
  - ⑤引用文献のリストは最大 30 名まで、すべての著者の名前を含める(その以上は、et al. を付ける)。
  - ⑥生理人類学のリファレンススタイル誌の例を以下に示す。(略)
  - ⑦Web リンクや URL は、引用番号を付し、原稿テキスト内よりも引用文献リストに含める。(略)
  - ⑧生理人類学のリファレンススタイル誌の例を示す。(略)

### III. イラストや図の用意 Preparing illustrations & figures

- ①イラストは、別ファイルとして提出する
- ②カラー図表の追加料金はかからない。
1. フォーマット: pdf, docx/doc, pptx/ppt, eps, png(写真や画像に適した形式), tiff, jpeg, bmp とする。
2. 図の説明 (Figure legends)
  - ①原稿ファイルの最後に記す。
  - ②図番号はアラビア数字を使用する。
  - ③15 ワード以下で図のタイトルを記す。
  - ④300 ワードまでの詳細な説明を記す。
  - ⑤以前に公表された図・表を再使用する場合、著作権所有者から事前に許可を取る。

### IV. 表の用意 Preparing tables

- ①アラビア数字(表 1 など)を使用して、順に番号を付ける。
  - ②全体を要約するタイトルを表の上部に付ける。タイトルは 15 ワードまでとする。
  - ③小さな表は、本文の最後(「引用文献」の後)に置くことができる。
  - ④「色」と「陰影」は使用しない。カンマも数値を示す場合使用しない。
- (大きな図に関する記述ならびに詳細は略)

### V. 追加ファイルの用意 Preparing additional files(略)

### VI. スタイルと言語 Style and language

- 1) 一般
  - ①英語論文のみとする。
  - ②アメリカ英語あるいはイギリス英語とし、混合使用は避ける。
- 2) 科学的な執筆へのアドバイスおよび支援(略)
- 3) 略語(略)
- 4) 組版

- ①ダブルスペースとする。
  - ②改行は見出しと段落において使用する。
  - ③大文字はタイトルの最初の単語と固有名詞だけとする。
  - ④全てのページにページ番号を振る。(その他は略)
- なお、Short Reports における投稿規定を以下に記す(Original Articles と異なる点のみ)。
- ①原稿の長さは、1,000~1,500 ワードとし、引用文献数は 25 以下とする。
  - ②原稿セクション内の Findings(「原著論文」では「背景」「方法」「結果と考察」「結論」に当たる部分)に研究仮説、方法ならびに結果を含む本文を記載する。サブセクションに分割することができる。
  - ③アブストラクトは、250 ワード以下とする。
- ※ 投稿料については生理人類学会ホームページ(<http://jspa.net/journal/>)を参照。

本投稿規定和訳版は宮崎研究室の投稿用に作成されたもので、誤りが含まれている場合があります。JPA に投稿される方ご自身の責任においてこの和訳版をご利用いただくとともに、投稿の際には、Instruction for Authors (<http://www.jphysiolanthropol.com/authors/instructions/>)を参照頂きますようお願い申し上げます。

### from Editors

次号No.2の原稿締切は2013年5月1日です

▽JPA 誌が電子化されたことに伴い、学会々員数が減るかもしれない...と危惧しておりましたが、この1年余りの傾向を見ると、むしろ会員数が増加傾向にあるようで嬉しい限りです。

### ▽PANews 編集事務局

安陪大治郎 九州産業大学 健康・スポーツ科学センター  
仲村 匡司 京都大学大学院 農学研究科  
メールアドレス [panews@jspa.net](mailto:panews@jspa.net)

※原稿、お問い合わせなどはこのメールアドレス宛にお送りください。